

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ススミダス（児童発達支援センター）		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 30日		2026年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 44人	(回答者数)	25人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 6日		2026年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 13人	(回答者数)	13人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性を踏まえた専門性のある支援を実践している	・個別のアセスメント、日々の行動観察を通して特性シートを作成し、その情報を職員間で共有した上で個々の子どもに応じた環境調整や支援方法を検討しながら支援を行っている。	・支援後の振り返りの時間を確保する工夫を行い、記録やアセスメント結果を支援改善に生かす仕組みづくりを進める。
2	アセスメントに基づき、個別支援計画を丁寧に作成し、職員間で共有した上で支援を行っている	・支援計画の作成や活動内容の検討をチームで行い、子どもの特性や理解の仕方について職員間で共通理解を図りながら支援を実践している。 ・日々の活動後には職員間で気づきを共有し、次の支援に活かすよう意識している。	・職員間での支援の共有をさらに進め、チームとして一貫した支援を行える体制を強化する。
3	職員研修や外部研修、コンサルテーションを通じ、継続的に支援の質向上に取り組んでいる。	・コンサルテーションを毎月実施。職員がコンサルタントと振り返りを行う時間をもち、改善点や課題について検討し実践につなげている。	・研修やコンサルテーションの機会を継続的に活用し、専門性の向上と支援の質の向上を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援終了後の振り返りや記録に十分な時間を確保しにくい	・業務の優先順位や時間配分が十分に整理されていない。	・業務の優先順位や役割分担を整理し、支援終了後の振り返りや記録の時間が確保できるよう業務の進め方を見直す。
2	記録やアセスメント結果を支援の検証・改善へ体系的につなげる仕組みが発展途上である	・記録から検証までの流れが明確に標準化されていない。	・記録様式や共有方法を整理し、アセスメント結果や日々の記録を支援改善に活かす仕組みを整える。
3	職員の多忙さが保護者にも伝わり、保護者との対話時間が十分に確保できない場面がある	・業務の優先順位や時間配分が十分に整理されていない。	・業務の流れや役割分担を見直し、保護者との対話の機会を意識的に確保し、安心して相談できる体制づくりを継続する。